

ポストLEDフォトリクス研究所



徳島大学は、2019（平成31）年3月に光科学分野の世界最先端研究と専門人材育成を担う「ポストLEDフォトリクス研究所」を大学附置研究所として新設した。

可視光の短波長側と長波長側には、「深紫外」「テラヘルツ」「赤外」といった、未だ実用光源が存在しない未開拓波長領域が広がっている。これらの波長領域では、可視光とは異なる特徴的な物質相互作用を示すため、薬品を使わないウイルス殺菌や大容量無線通信、針を刺さない呼吸による健康診断等、可視光とは本質的に異なる応用が期待できる。また、フォトリクス分野の世界トップレベル研究者を招へいし、「新しい光（深紫外、テラヘルツ、赤外）の創出と応用」をキーワードに、次世代光源の開発と応用展開で、創造的超高齢社会と地域産業振興に貢献する最先端研究『ポストLEDフォトリクス研究』を推進する。

研究所の目的のもう一つの大きな柱として、医光融合研究の推進及び医光融合プロフェッショナル人材育成を掲げている。大学で全国唯一、医・歯・薬・栄養・保健分野が揃う環境を生かし、特殊光を用いた癌の新しい内視鏡診断と光治療法の開発など、健康寿命を延ばし、QOL（=Quality of Life）を高めるための光学と医学の融合研究による新しい医療法の開発に挑戦すると共に、学部の垣根を超えた連携授業・実習実施等の教育プログラムによる光専門人材の輩出を行う。

研究所には、光学のみならず、様々な異分野の教員を研究所併任教員として配置し、積極的な情報共有・議論を通じて互いの研究テーマのブラッシュアップや融合研究創出を狙い、その先の社会実装を見据えて研究を遂行する。学内の連携に留まらず、徳島県・地域産業界とのオープンイノベーションにより、各波長領域の光源開発・応用研究に製品化への市場ニーズを反映させ、協働体制で世界との厳しい競争に打ち勝つイノベーション創出を目指す。

